

外科医と考える

“低侵襲手術”における 手術看護のあり方

~ 今一度、自分たちの役割を見直そう ~



患者の身体的負担の少ない低侵襲手術は、今後も増加することが予想されます。

医療制度改革によりタスクシフトが叫ばれるなか、

鏡視下手術のチーム医療における「手術室の看護師」の役割はどう変わろうとしているのか。

医師と看護師の視点で、さまざまな病院よりパネリストをお迎えし検討します。

開催日時

2021年9月11日(土) 14:00~16:00

開催場所

Zoom(オンライン)



登壇者



講師

済生会横浜市東部病院
副院長 外科部長
慶應義塾大学医学部外科学教室
一般・消化器外科客員准教授

江川智久 先生



ファシリテーター

昭和大学認定看護師教育センター
手術看護分野 主任教員
手術看護認定看護師

山口紀子 先生

プログラム内容

- ・低侵襲手術ってどんな手術? メリットやリスクについて
- ・低侵襲で終わらせるために看護師としてできること
- ・明日の手術に活かせる各施設での取り組みについて

参加費

無料

定員

1,000名

セミナー中も皆様からのご質問を
お受けし、ご質問に対する
意見交換を実施します!



お申し込み方法

- ① URLもしくは二次元コードから特設ページにアクセスし、必要事項をご入力のうえお申し込みください。
申し込み締切日 9月10日(金) 特設ページ <https://www.hogy.co.jp/seminar/index.html>
- ② 追ってご登録のメールアドレスへご視聴いただく配信URLをお送りいたします。
- ③ 当日は配信URLに接続のうえ、オンラインでご視聴ください。



※当日、アクセスできない・URLが分からぬ等の不具合がございましたら、こちらまでご連絡ください。

080-9089-3003 (営業管理部 吉留)

※セミナー終了後、アンケートにお答えいただいた方には当日の資料の一部抜粋、

セミナー内のご質問への回答を共有させていただきます。

※お申し込みを行った方で、当日参加できなくなった場合は、後日動画配信もございます。

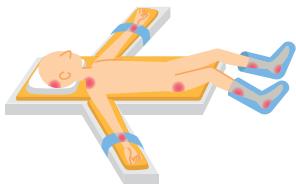
・本オンラインセミナーは医療従事者の方を対象としております。一般の方のお申し込みは、ご遠慮ください。
・同業者の方からのお申し込みはお断りする場合がございます。

低侵襲・特殊体位による手術では、 看護師による「術中の患者の観察・ケア」が ますます重要となります。



特殊体位による手術では、
周術期褥瘡が
発生しやすくなります。

碎石位では図の箇所に皮膚障害が発生しやすくなります。

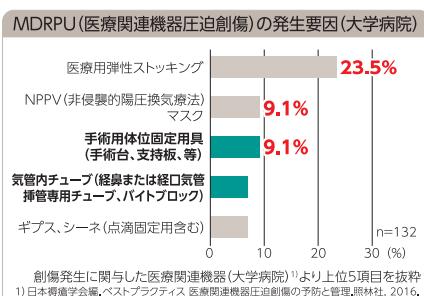


“長時間の血流障害”により起こる
コンパートメント症候群にも
注意が必要です。

碎石位・頭低位・チルト等はウェルレッグコンパートメント症候群、関節の過伸展過屈曲による神経障害のリスク要因です。



手術用体位固定用具は
MDRPUの発生要因の上位に。

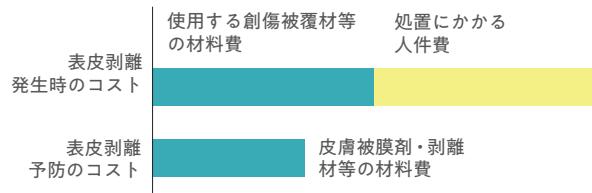


患者の状態を観察しやすくすることで合併症予防に貢献します。

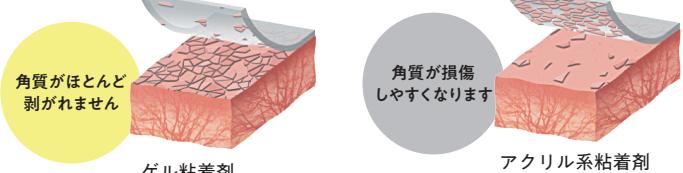
スキン-テア(皮膚裂傷)はテープ剥離時に
多く発生しています。

高齢者は皮膚が脆弱になっている方が多く、スキン-テア(皮膚裂傷)への注意が求められます。強粘着性のテープを使用する頻度の高い手術室では、より徹底したスキン-テア対策が必要です。

表皮剥離の予防は、
発生にかかるコストの削減にも貢献！



ゲル粘着剤を使用した
粘着テープなら皮膚への刺激を
やわらげられます。



株式会社ニトムズホームページより

オンラインセミナー内でも、ホギメディカルより
患者の安全に寄与する製品をご紹介します！